

【恵那市の方針】

ふるさとを愛し、学び続ける人を育てる恵那の教育

○規律と対話のある教育 ○一人一人に確かな学力が身につく授業 ○地域に根ざし、地域を生かす、特色ある学校

【上矢作中学校 学校教育目標】

自ら学び 逞しく生きる 心豊かな生徒

【目指す生徒の姿と意識】

自立力

共生力

自己実現力

自信と誇りをもち、自他の違いを受けとめつつ、思いを伝え合い、なりたい自分に向けて努力する

(校訓 3C ChanceにChallenge、自己Change)

■評価の窓：「学ぶことは楽しいと感じる時がある」 ふれあいアンケート等

「思いを語り合うことができる」「地域に貢献できて嬉しく思う」生徒評価

ともに平均3.2以上

重点1 学力向上

(1) 学びが深まる楽しさの実感づくり

- ・学びが深まる楽しさを感じられる協働学習のための教師の授業研究、自己分析に基づく家庭学習の充実

(2) 思考力・自己表現力の育成

主体性

- ・自身の考えを発信する表現力の育成
- ・効果的なICT活用等による思考力の育成

重点2 生き方の醸成

(1) 語り合う力の育成

- ・生徒が自発的に思いを語り合う活動の活性化により、相手を理解し、深くつながる機会の創出

(2) ふるさと教育による郷土愛の育成

郷土愛

- ・上矢作プロジェクト、上矢作太鼓等継承活動等の充実
- ・地域の方々との積極的な交流による貢献意識の育成

重点3 ライフスタイルの確立

(1) 基本的生活習慣の確立

- ・生活記録表等を活用した生徒の実態把握と、目標に向かう自律性の高い生活づくり

(2) 「人とよりよく生きる」ための心の育成

社会性

- ・道徳や日常での、判断力や多様性を理解した温かい人権感覚の育成

【生徒の実態】

- 素直で誠実な人間性をもち、概ね落ち着いて取り組める。
- 優しく、相手の気持ちを思いやった行動をとることができる生徒が多い。
- 地域の行事に進んで参加する生徒が多い。
- 自分の思いを「読み上げる」から物怖じせずに「語る」生徒が増えた。
- △大人への依存度が高く、学習や諸活動において、自ら課題をもち深める姿勢に弱さがある。
- △規則正しい生活ができず、画面視聴時間が多い生徒がいる。
- △自己肯定感が低い生徒がいる。

【学校課題】

- ・学習習慣の定着と主体的に学ぶ力の育成
- ・自律的な生活の確立

■R6 学校生活アンケート(4点満点での平均)

- ・先生は助言や良い所を誉めてくれる 3.8↑
- ・生活内で思いを語ることができている 3.3↑
- ・授業で課題の解決に向けて自分で考え、取り組んでいる 3.3↑
- ・小さな目標を決めて家庭学習に取り組む 3.0↑
- ・目標を意識し、進んで家庭学習を行う 2.7↑

・スマホやゲームなどやり過ぎないよう、自分でコントロールすることができている。 生徒3.1 保護者2.3

■職員体制

【基盤となる学校・教師の構え】

■家庭・地域との連携

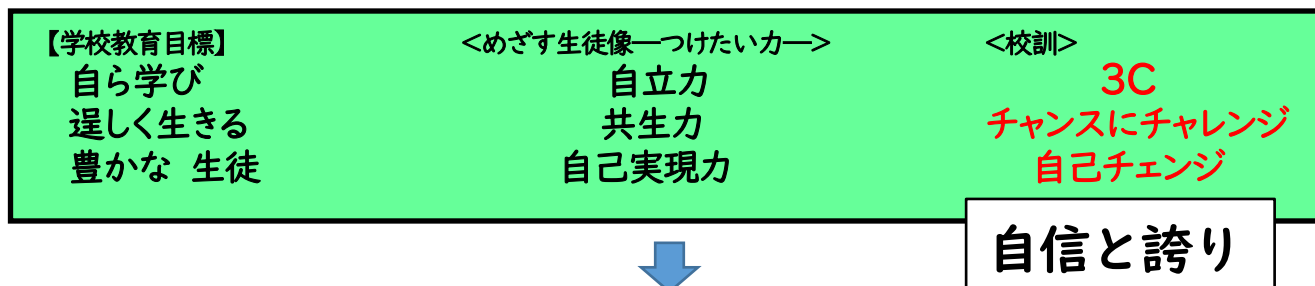
- ・全ての生徒がかかけがえない一人(全教職員で見る)
- ・積極的な研修と授業改善による教科指導力及び生徒指導力の向上
- ・愛情・信頼をベースとした傾聴対応・支援・教育相談
- ・大人は子どもの「生きるモデル」大人も語り、動く
- ・危機感をもち、諸機関と連携した生徒指導体制の充実
- ・働き方改革の推進と同僚性の構築

- ・PTAとの連携による円滑な学校運営の推進
- ・学校運営協議会、地域学校協働活動本部をはじめとした各種団体等との連携・協力
(地域に頼りにされる生徒を育てる)
- ・家庭や地域への積極的な情報発信
(学校学級通信、HP、すぐえる、電話、訪問、面談・・・)
- ・教師も地域社会に貢献しつつ、生きがいをもち、笑顔で

令和7年度 学校経営ビジョン・重点とする具体的な教育活動

生徒の実態

- 素直で誠実な人間性を持ち、概ね落ち着いて取り組める。
- 優しく、相手の気持ちを思いやった行動をとることができる生徒が多い。
- 地域の行事に進んで参加する生徒が多い。
- 自分の思いを「読み上げる」から物怖じせずに「語る」生徒が増えた。
- △ 大人への依存度が高く、学習や諸活動において、自ら課題をもち深める姿勢に弱さがある。
- △ 規則正しい生活ができず、画面視聴時間が多い生徒がいる。
- △ 自己肯定感が低い生徒がいる。



重点①：学力向上

- (1) 学びが深まる楽しさの実感づくり
 - ・学びが深まる楽しさを感じられる協働学習のための教師の授業研究、自己分析に基づく家庭学習の充実
- (2) 思考力・自己表現力の育成
 - ・自身の考えを発信する表現力の育成
 - ・効果的な ICT 活用等による思考力の育成

重点②：生き方の醸成

- (1) 語り合う力の育成
 - ・生徒が自発的に思いを語り合う活動の活性化により、相手を理解し、深くつながる機会の創出
- (2) ふるさと教育による郷土愛の育成
 - ・上矢作プロジェクト、上矢作太鼓等継承活動等の充実
 - ・地域の方々との積極的な交流による貢献意識の育成

重点③：ライフスタイルの確立

- (1) 基本的生活習慣の確立
 - ・生活記録表等を活用した生徒の実態把握と、目標に向かう自律性の高い生活づくり
- (2) 「人とよりよく生きる」ための心の育成
 - ・道徳や日常での、判断力や多様性を理解した温かい人権感覚の育成

その他

職員体制

- ・全ての生徒がかけがえのない一人（全教職員でみる）
- ・積極的な研修と授業改善による教科指導力及び生徒指導力の向上
- ・愛情・信頼をベースとした傾聴対応・支援・教育相談
- ・大人は子どもの「生きるモデル」大人も語り、動く
- ・危機感を持ち、諸機関と連携した生徒指導体制の充実
- ・働き方改革の推進と**同僚性**の構築（**初任者を育てる**）

家庭地域

との連携

- ・PTA との連携による円滑な学校運営の推進
- ・学校運営協議会、地域学校協働活動本部をはじめとした各種団体等との連携・協力（地域に頼りにされる生徒を育てる）
- ・家庭や地域への積極的な情報発信（学校学級通信、HP、すぐーる、電話、訪問、面談・・・）
- ・教師も地域社会に貢献しつつ、生きがいを持ち、笑顔で